



市民の声を市政に反映
杉森ひろゆき
 市議会議員ニュース

杉森弘之 後援会 広報委員会 発行
771号 2019年8月20日
 〒300-1235 牛久市刈谷町1-41-8
 TEL・Fax : 870-0335
 携帯 : 090-5587-7693
 Mail : sugimori@max.hi-ho.ne.jp

第2回定例会

県南水道企業団議会

杉森議員が所属する茨城県南水道企業団議会（定数14）第2回定例会が8月2日に開催され、3議案、3報告の提案理由を企業長の藤井信吾・取手市長が説明しました。企業団は牛久市、龍ヶ崎市、取手市、利根町の3市1町で構成。

消費税10%で水道料金も値上げ

議案第1号は、茨城県南水道企業団水道事業給水条例の一部を改正する条例について。

1点目は2019年10月1日からの消費税及び地方消費税の税率10%への引き上げに伴い、水道料金を改定するもの。端数処理は切り捨てとしており、牛久市の切り上げとは対照的です。

2点目は学校教育法及び技術士法施行規則の改正に伴い、布設工事監督者等の資格について、所要の改正を行うものです。

H30年度は3億円余の純利益

議案第2号は、平成30年度茨城県南水道企業団水道事業会計決算の認定及び剰余金の処分についてです。

業務の決算概要では、給水戸数は10万6,815戸で、前年度末より1,593戸の増。給水人口は24万3,270人で、普及率は85.2%となっています。年間総給水量は2,586万6,144m³で、前年度より33万8,007m³の増。有収率（給水量と料金収入のあった水量との比率）は89.9%で、前年度より1.1%の低下となりました。

財務の決算状況では、損益勘定における収支の状況は、水道事業の総収益が55億4,677万5,640円、総費用が52億788万6,438円で、3億3,888万9,202円の純利益でした。

茨城県南水道企業団 経営戦略プラン

茨城県南水道企業団は、本年3月に「経営戦略プラン」を策定しました。水需要の減少と施設の老朽化が進む中で、安全な水を安定的に供給するためのものです。

水需要の減少が進む

水需要予測では、企業団として2013年度に1日平均63,496m³であったものが、2035年度には58,041m³に、牛久市単独でも2028年度をピークに減少すると予測されます。

施設の老朽化は深刻

施設の老朽化は深刻で、配水場の更新には今後10年間で60億円、配水管の更新には185億円が必要になります。

水道料金値上げは慎重に

以上のことなどを踏まえ、2022年度に14%、2027年度に20%となる値上げを実施したい考えを表明していますが、慎重な検討が必要です。過剰な水需要予測に基づく不要な水購入、不要な導水事業や八ッ場ダム建設などによる経費負担など、整理すべきことも少なくないからです。

刈谷地区で8/19から漏水調査

なお、牛久市における配水管の漏水調査は、8月19日～9月30日に刈谷地区で、10月1日以降に南地区で実施される予定であり、その費用は約500万円弱とのこと。

新 安 全 神 話

「原発安全神話」から 「被曝安全神話」へ

元京都大学原子炉実験所助教

小出 裕章 さん

原子力発電所というのは、科学の粋を集めて造ったものであって、絶対に大きな事故なんて起こりません、と皆さんは聞かされてきたはずだと思います。でも事実は違ったのです。福島第一原子力発電所の事故がそれを教えてくれました。途方もない事故が起きたわけですが、そうやって今どうなっているかという、今度は「原子力安全神話」じゃなくて「被曝安全神話」というのが出てきています。

良心的学者までもが

被曝というのは絶対に危険です。あらゆる意味で危険です。

そして彼ら(原子カムラではなく原子カマフィアと呼ぶ)はどうしたかという、「いやもう大したことないんだよ、被曝なんていうのは怖がることはない、100mSv以下なら何のこともない」というようなことを言って、人々を汚染地に住み続けさせようとする。

一度は逃げた人に対しても「戻れ」と言い出すことで、「被曝安全神話」を、今しきりに振りまき始めました。そこで私は皆さんに原点に戻って考えて欲しいと思います。

なぜ被曝で人は死ぬか

皆さん、風邪をひきますよね。体温計で今日はいつもの体温より1℃高くなっちゃった、2℃高くなっちゃった。でも人間という生き物はそんなことでは死なないんです。それが、こと放射線からエネルギーを加えられる時には、1000分の1℃とか1000分の2℃加えられたら、死んでしまいます。

なぜそんなことになるかという、この世にあるすべてのもの、私の体もそうですが、すべては化学結合というもので成り立ってい

低線量被ばくによる有意ながんリスク増加が証明されたチェルノブイリ以外の研究一覧

対象集団	報告年	がんの種類	累積被ばく量	増加量
日本原発労働者	2011	全がん、肺がん、肝がん	10mSv	3~10%
医療被曝(CT)	2011	全がん	10~40mSv	10mSv毎に3%
医療被曝(CT)	2012	小児白血病、脳腫瘍	50~60mSv	3倍
自然放射線	2012	小児白血病	5~10 mSv	累積 5mSv 超で 1mSv毎に12%

昔々、広島原爆被爆者の(問題のある)「データ」をもとに出された数値そのまま10mSvの被ばくで癌の増加は0.47%だと主張する「専門家」が現在もいるようです。

しかし、近年、日本の原発労働者20万人の疫学調査などによって低線量被曝の影響は、従来「信じられてきた数値」よりもはるかに大きいことが明らかになってきました。

ます。水素、酸素、炭素などが、私のDNAの遺伝情報もそうですけれども、お互いに手を繋ぎあって維持しているわけです。

セシウム137という放射性物質はガンマ線という放射線を出しますが、そのエネルギーは66万1000エレクトロンボルトです。生物が生きるための化学結合のエネルギーから比べると、数十万倍のエネルギーの塊に被曝させられます。つまり、生きていられなくなる。では、死なない程度の放射線なら安全なのかということ実はそうではないのです。必ずあちこち傷を受けているわけです。

被曝量と危険度の相関性

被曝の影響は被曝量に比例して存在することになっている。被曝者の人たちを10万人も、長い年月をかけて調べていきました。

初めの頃は、高い被曝をした人は確かに危険があることが分かった。もう少し研究を続けていくと、やっぱり危険はずっとあるぞということが分かってきた。つまり、どんなに低い被曝になっても、被曝量に比例して危険があることが分かってきたわけです。

いろんな説があっても、現時点での学問の定説というのは、被曝の影響は被曝量に比例して存在することになっています。